

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901933		
法人名	有限会社つながり		
事業所名	グループホームつながり		
所在地	旭川市北門町9丁目2644番地の36		
自己評価作成日	平成30年9月3日	評価結果市町村受理日	平成30年11月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の向かいには教育大学です。緑豊かな教育大学キャンパスでの散歩。近くの緑道(歩く散歩道)での散歩。自然に触れる生活を大事にしています。また、施設近隣に医療機関、保育園、公民館、児童センターそしてスーパー、ドラッグストア、衣料品店、美容室などがあります。地域社会との触れあいも同時に大切にしております。施設理念「生きていて良かった」のもと「食べる事は生きる事」「最後までトイレで・・・」「寝たきりにはさせない・・・」に、こだわり、その方の思いや願いに寄り添って生きがいのある生活(人生)の支援をさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172901233-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172901233-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年10月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前身の高齢者住宅を改造し、平成15年に「グループホームつながり」として発足している。バス停から近く、通称ナナカマド通りに面し、向かいの教育大学とは、許可を得て構内散策や混声合唱団として学生が毎年来訪するなど、良好な関係にある。創設者の「病気の人も健常者も分け隔てなく一緒に過ごそう」との精神を受け継ぎ、理念である「生きてよかった」を念頭に、その人らしい人生を支援する取り組みが行われている。運営推進会議は、ミニ学習会(体操等)や避難訓練等を組み入れ、大勢の地域住民や知見者、家族、行政の出席を得て、事業所の質の確保に向けた意見交換が行われている。利用者の笑顔を見たいと、琴の演奏会、歌や民謡等のボランティアの導入、保育園児や中学生、大学生との交流や、「この食事は美味しい」との言葉があるなど、バラエティーに富んだ献立作りに努めている。利用者から沢山の感謝の言葉があり、職員は、それを励みに日々のケアサービスに勤しんでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を職員全体で確認。施設理念「生きていてよかった」のもと、チームケアを重視し、より良い介護サービスに向けて実践している。	開設時の理念を具体化した「生きていてよかった」を新たに作成し、最期までその人らしい人生を支援する態勢を整えている。利用者や家族から頂く感謝の言葉は、職員の原動力になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	散歩や戸外に出掛けて地域の方と挨拶を交わしたり、旬の野菜や果物の差し入れを頂いたり自然な形で交流。町内会にも加入し施設の行事(焼肉・消防訓練・コンサート等)の案内もしている。	保育園児の歌や遊戯、御神輿の披露、中学生の職場体験、大学生の混声合唱団、退去した利用者の家族が仲間と一緒に歌のボランティアなど、数々の来訪があり、利用者の豊かな生活に繋げている。公民館に、中学生の吹奏楽を聴きに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成28年度には救命救急講習会を平成29年度には北星・旭星地域包括センター様協力のもと体操教室を実施している。今年度も内容は未定だが参加型の学習会の予定をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討或いは勘案事項については、話し合いを継続し深めサービスの質の向上に努めている。また行事ごとの感想・意見を頂き次回に向け反映出来るよう努力している。	大勢の参加者の下、年6回の会議を開催し、ビデオや写真等を組み入れたの活動報告を軸に、避難訓練や身体拘束防止等に活発な意見交換が行われている。さらに、地域関係者や知見者、家族、行政から多様な情報が得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会、説明会に参加。認定更新時は利用者さんの現状等を伝えなが連携に努めている。	事故報告や相談等は担当窓口へ出向き、空き情報等はFAXで報告し、疑問点は電話で尋ねている。ケースワーカー来訪時は、情報交換で利用者の生活への安心感に繋げている。時には、地域包括職員の指導で住民、家族参加型の体操教室を開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を設置。廃止宣言を掲示。(2004.10/1) 拘束しない介護に努めている。	身体拘束等の適正化に向け指針の整備、研修会の実施、運営推進会議の参加者を身体拘束廃止推進委員に委ね事例検討を行っている。センサーマットやベット柵使用時は、利用者や家族に説明し、介護計画に反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケア、言葉の暴力も虐待である。の認識の下に防止に努めている。外部研修の他、当ホームでの学習会の開催も準備中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度の対象者はいないが、研修会に参加し学んでみたいと思います。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームの運営方針、起こりうるリスクも含め丁寧に説明。ご家族の理解と納得に努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に情報交換をし些細な事でも話せる雰囲気作りを努めている。意見や要望は職員会議で共有し利用者さんの支援に繋げている。例えば個別のレクリエーションなど。	家族は事務室に立ち寄り、利用者の様子を聞いてから面会を行っている。家族からの要望は聞かれないが、職員は受け止める態勢にある。定期的な事業所便りには家族宛のスペースもあり、活動状況を伝えるなど情報を共有し、共に利用者を支えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大事にすると共に毎月のスタッフ会議の中で意見交換やアイデア等を出す機会を作り運営に反映させている。	代表者は介護職員としての立場を経ており、職員に「困っている事はないか」と問いかけ、意見や要望の汲み取りに努めている。週4回の夜勤専門職員の導入や研修会参加の促進、提案によりレクの改善が行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者さん・職員との関わりを持ち現状の把握に努め、職員が働きやすい環境作りを努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量に応じて必要な研修の受講の確保に努めている。その他職員からの希望の研修会への参加にも協力している。会議の中で研修報告を実施しレベルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催の研修会・懇親会の参加。近隣の他施設との交流等にも努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に出来るだけ、本人の意向を聞き生活状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっての経緯、苦勞されてきた事、要望などを含めて良く傾聴し、入居前に見学やお茶・レクリエーションへのお誘いなどの呼びかけを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いや希望を確認し必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、希望を知る中でそれぞれが活躍できる場の設定をし支援している。例えば一緒に調理したり食後の片付け、洗濯物の整理など生活の中で信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族と情報交換。つながり便りの発行(個人欄を設けている)、行事参加への呼びかけなど共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人に会いに行く。或るいは来訪して頂く。馴染みの場所。又はお店、墓参りなどご家族の協力を得ながら支援に努めている。	利用料持参方式は面会にも繋がり、家族は基より、親類、知人の来訪も多く、他の利用者にとっても顔馴染みになっている。行楽地は行事で訪れ、歌好きな利用者には家族がカラオケに同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になり、気の合う方同志過ごせる場面を設定(散歩や食事など)、役割活動を一緒にする中で支え合える関係作りに努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、退去後も来訪、電話、手紙等の交流をさせて頂いている。なかにはボランティアで定期的に訪問して頂いている方もおります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の(関わりの中)で思いや意向の把握に努めている。	利用者との会話から「何をしたいか」「行きたいところ」などの要望を聞き、アンケートとして記録に残し、一人ひとりの思いに沿うよう努めている。歌好きな利用者と一緒に同業者のカラオケケレクに参加したり、要望で動物園に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってきたか？今後の生活支援の為に、ご家族や利用者さんのお話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23.24と同様、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の思いを良く傾聴。その事を大事にしながら毎月のスタッフ会議の中で意見交換をし介護計画に反映できるように努めているがまだ不十分である。	介護計画は、利用者への聞き取りアンケートや家族との会話から生活への意向を捉えている。個別の記録等を参考に、全職員による課題分析や評価を経て作成している。定期見直しや急変時は、新たな計画の策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌・個別ケア記録・受診記録・職員の連絡ノート等を活用し情報を共有し、話し合いのもと介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊時或いは会食など場所を提供。また希望により施設内でのご葬儀等の支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員が推進委員。近隣美容室に依頼し出張して頂いたり、向かいの「大学祭」、「公民館フェスティバル」、保育園などの行事にも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院の他、ご家族、ご本人が希望する病院の受診、往診が出来るように支援している。	大方の利用者は、協力医による月1回の訪問診察を受けている。入居前の馴染みの医療機関や専門医への受診は、家族の協力を得て主に看護職員が同行し、受診内容は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置(非常勤)その他協力病院とは医療連携をし適切な受診・看護が受けられるように支援している。施設でターミナルを希望された方の訪問看護をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージの防止。可能であれば当施設でリハビリ出来るように医療機関、ご家族と相談しながら早期退院の支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞き、その上で医療機関と相談。ターミナル対応希望書を作成して支援方法の話し合いに活かしている。	入居時に重度化や終末期の対応指針を説明し、重篤時には関係者と話し合い、家族の意向を確認後に看取り支援の開始としている。職員は、最期までその人らしくを念頭に「最期までトイシで」を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の実施(平成29年2月に実施)今後定期的に研修を考えている。「心肺蘇生法、AEDの使用法」地域、推進委員、スタッフ参加する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を2ヶ月に1回実施。春の訓練時は消防職員指導のもと、地域、推進委員、ご家族の方にも参加を呼びかけ実施。災害時の備品も順次購入し備蓄に努めている。水災害訓練も実施(8月)	消防署指導の下、年2回の避難訓練を計画し、夜間想定訓練を終えている。運営推進会議日に合わせているため、出席メンバーの協力も得ている。水害想定訓練も実施している。定期的な自主訓練も順次行い、防災への意識を高めている。	今回の胆振東部地震は、日頃の備えや職員の協力があり、利用者に混乱は起きていない。不足の備蓄品は順次用意し、地震、雪害などあらゆる場面を想定しての対応を考慮しているので期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思い、願いの把握。プライドを傷つけないようにさりげないケアをしたり、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	利用時に、名前の呼び方を聞いている。信頼関係の中での言葉かけはあるが、代表者は不適切にならないよう助言をしている。個人関連の記録は、ローマ字表記としている。居室のトイレ設置もプライバシーの配慮と言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に応じた言葉かけを心がけ、自己決定を出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の基本的な一日の流れはあるが、その方のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわり(スタイル)の把握。必要な支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ごとにメニューを工夫している。例えば節分の恵方巻き作りやお彼岸などのおはぎ作りなどもしている。日常的に調理(野菜カット)に参加している利用者さんもいる。	利用者の持てる力を発揮出来る場面作りに努めながら、三食手作りを基本としている。時には、利用者主体の食事作りを企画している。外食の要望はなく「ここで食べたい」の言葉は、職員の励みになっている。家族の支援で、外食している利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保が必要な方の支援。トロミや刻み食、ミキサー食、栄養補助剤の活用などで対応している。ひとり一人の摂取量の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて口腔ケアの支援をしている。歯ブラシの声掛けや入れ歯の洗浄、消毒の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあり「最後までトイレで!!」にこだわり必要に応じて(二人介助)支援している。	居室にトイレがあり、共同トイレも3カ所設置している。すぐにトイレを使用できる環境にある。自立排泄に変化があればすぐに対応し、失敗の改善や軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録。水分確保や軽い運動(体操・散歩)等予防対策をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好みの湯加減、仲の良い方同志での入浴など希望を聞きながら支援している。	入浴は、週3回を基本にしている。状況により2人介助を行い、湯船の中で寛げる支援に取り組んでいる。シャワー浴や清拭、足浴も行っているが、拒否がある場合は無理強いはせず、次回の入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良い眠りの確保に向けて24時間の生活リズム作り。日中の活動と休息を考慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり支援。薬の変更等は連絡ノートなどで回覧。個別に服薬綴りがあり職員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人が力を発揮できるように調理や裁縫のお手伝いをお願いしたり、施設内でのコンサートや地域の保育園等との交流などもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アンケートを取ったり、日常の会話の中から情報を得、ご家族の協力など得て個別レクや施設外レク(カラオケや外食、動物園など)の外出支援をしている。	福寿草やコブシの花、桜並木、紅葉を楽しみながら、周辺や大学構内の散歩を日常的に行っている。買い物等の個別支援もあるが、大型公園散策などの外出行事は家族の協力を得ている。冬は、車窓からの雪祭り見物を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもとその方に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族に電話をする方、携帯電話でする方などその方に応じた支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールに写真や季節の花を配置し楽しめる工夫をしている。	日当たりの良い居間には、絵画や利用者の作品等が程よく飾られ、芸能披露の舞台にもなる畳敷きも設置している。台所と居間が一体化しており、利用者との距離感が近く穏やかな空間になっている。居間の窓からは、四季折々の木や花が眺望できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチ、ホールや廊下にソファを配置し思い思いの場所でくつろげる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・寝具など本人の使用していた物が持ち込まれその方らしい居室となるように努めている。	居室は寝室と生活空間が別々にあり、メリハリある設えになっている。入居時に馴染みの物の持ち込みを勧めており、机やタンス、趣味の物が置かれ、自分の部屋として過ごしているのが覗える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態を考慮して手すりの設置やトイレ入り口にカーテンを設置したり、ベッドや家具等の配置の工夫をし安全な環境作りに努めている。		